

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【人権に関する道徳の授業実施】	各学年の道徳の授業において、人権に関する題材を年間計画に盛り込み、生徒の人権意識を高めることを念頭に置いて授業を実施した。 成果 生徒に身近なクラスでのいじめ問題や、国際社会での問題といったグローバルな題材など、生徒が多様なものの見方や共感的な理解をするのに役立った。 課題 単学級であるため人権に関する題材が各学年バラバラで、担任同士で同じ題材について意見を交換することができない状況となっている。教員同士での深め合いの機会も検討したい。
2 実践2 【生徒会や有志による諸行事への参加】	生徒数の減少により、本年度よりI B I（本校独自のいじめ撲滅委員会のこと）・J R C委員会の発足ができなかったが、毎年同委員会が中心となって実施していた「小中合同あいさつ運動」に、2年生全員と3年生有志の生徒が参加することができた。久慈中や坂本東小の生徒、児童たちと坂本東小学校の正門の前に立ち、登校した児童たちや地域の方々一人一人にむけて声をかけるあいさつ運動を行った。 また、生徒総会に合わせて、全校生徒でいじめ問題について考える集会を開催し、「いじめゼロ宣言」を行った。 さらに、『「さわやかサロン」会員の方々へ、あなたの“優しさ”を届けてみませんか？』をキャッチフレーズに、日立南交流センターで開かれている独居高齢者の方々の集い「さわやかサロン」に生徒が書いた手紙を送るボランティア活動を実施した。また、「さわやかサロン」の集いにも進んで参加し、レクリエーションや会食を共にし、楽しむことができた。 成果 みんなが楽しく過ごすために何が必要か深く考える場を設定し、居心地の良い学校の雰囲気をつくり、生徒一人一人の自己存在感を高揚させることができた。 「小中合同あいさつ運動」では、小学生や久慈中生と協力してさわやかにあいさつ運動を行うことができ、小中の連携が深まった。 課題 活動を始めた当初の目的意識が薄れてきており、活動が形骸化している様子がみられる。今一度活動の意義や目的を生徒に考えさせる必要がある。学校統合に伴う在校生の減少により、生徒一人一人の負担が増加している点も考慮しながら、年度末へ向け多くの生徒が活動に参加できるよう呼びかけていきたい。 